



日本小児アレルギー学会

Japanese Society of Pediatric Allergy and Clinical Immunology

理事長ニュースレター

日本小児アレルギー学会第14期理事長 藤澤隆夫

2017.11.15 発行 (第6号)

はじめに

2017年8月23日付けで、日本小児アレルギー学会第14期理事長に再任していただきました。歴代理事長の馬場実先生、西間三馨先生、森川昭廣先生、近藤直実先生の卓越したリーダーシップにより、学術研究のみならず、様々な分野で大きな社会貢献を果たしてきた本学会の路線を継承するとともに、第13期で着手した事業をさらに発展させるべく、専心努力いたしたいと存じます。どうかよろしくお願いたします。

13期より、年に2回発行しておりますニュースレターです。最近6ヶ月間の会員の学会活動をまとめさせていただきます。

会員数について

2017年11月1日現在、会員数は**4145名**（名誉会員19名を含む）となりました。本学会発足以来ずっと増加をしており、小児アレルギー疾患とその治療ニーズの増加、そして、治療と研究に関わられる方々の関心の高さを反映しているものと思います。しかしながら、会員の分布に大きな地域差があることが懸念されます。アレルギー疾患対策基本法では、アレルギー疾患をもつ患者がどこに住んでいても等しく標準的ケアが受けられるというアレルギー診療の「均てん化」を目指しています。これを達成するために、学会の役割は重要ですので、各種セミナーやインターネットメディアの利用など、今期の重点課題として取り組みたいと思います。

小児気管支喘息治療・管理ガイドライン (JPGL) 2017 発刊

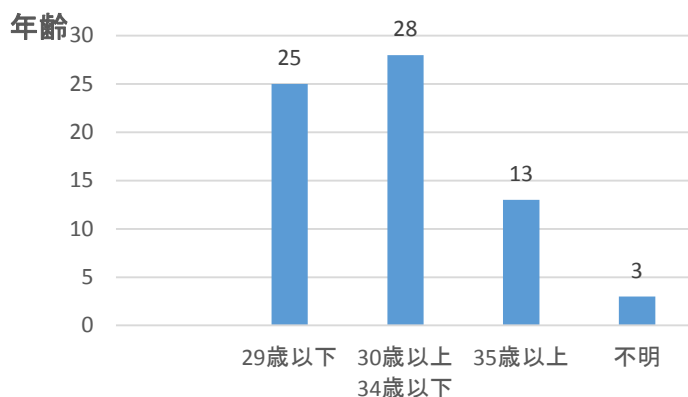
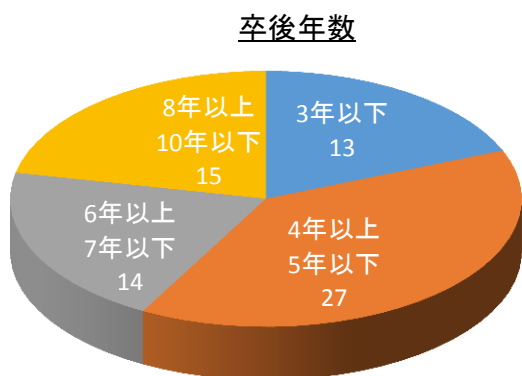
2017年11月18日、新しいJPGL2017を発刊いたします。宇都宮市で開催される第54回日本小児アレルギー学会（宇都宮市）から発売開始しますので、どうかお買い求めください。今回の改訂では、EBMに則り、重要な臨床的課題については、クリニカルクエスチョン(CQ)としてまとめて、システマティックレビューに基づいた治療の推奨を提示しました。乳幼児期の喘息への新しい考え方、長期管理治療のよりわかりやすい提示など多くのアップデートが盛り込まれています。

(ガイドライン委員長：荒川浩一先生、副委員長：足立雄一先生、海老澤元宏先生)

第1回小児アレルギースキルアップコース開催

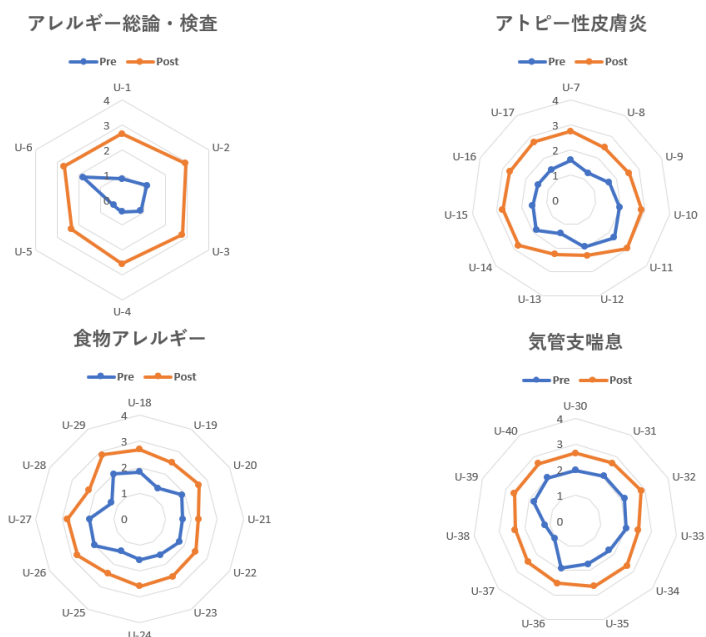
(Pediatric Allergy Skill Up Course: PASCO)

若手小児科医に小児アレルギー診療の基礎となる知識と手技をマスターしてもらうことを目的に、第1回小児アレルギースキルアップコース (Pediatric Allergy Skill Up Course: PASCO) を2017年5月13-14日、東京で開催しました (グラクソスミスクライン医学教育事業助成による)。アクティブラーニング形式のプログラムに全国からの69名が熱心に参加されました。



本学会で活躍されている若手講師陣による充実したプログラムに参加者の満足度は高く、アレルギー診療の均てん化におおいに貢献できるものであったと思います。参加された方が実際に診療に役立てておられるかについて6か月後の調査も実施中であり、評価結果を基に今後さらなる充実を図ります。セミナーの講義部分はビデオ配信も開始しました。

研修前後での理解度の変化



(小児アレルギー教育セミナーWG 委員長：足立雄一先生)

第3回臨床研究支援セミナー開催

さまざまなクリニカルクエスト（CQ）をおもちの先生方を対象に、臨床研究の基本的な手法を学んで質の高い研究に結実していただくための臨床研究支援セミナー（CReSS）は、今年が3回目となり、2017年8月19-20日に開催しました。（参加者40名）

外部を含めた一流講師陣による講義とともに、グループ演習として、参加者が提案したCQを構造化、模擬的ながらも研究計画にまで作り上げるという2日間の合宿形式のプログラムですが、「参加して本当に良かった」「非常に勉強になり楽しかった」「講師と率直に話ができて良かった」「研究に対するモチベーションになった」など肯定的な評価をいただきました。

8月19日（第1日目）

- 12:30-13:25 **CQから研究デザインを構築する**
大矢幸弘先生（国立成育医療研究センターアレルギー科）
- 13:30-14:25 **観察研究の進め方**
勝沼俊雄先生（東京慈恵会医科大学附属第三病院小児科）
- 14:45-15:40 **介入研究の進め方：臨床研究のピットフォール**
小林徹先生（国立成育医療研究センター臨床研究開発センター）
- 15:45-17:00 **グループ演習：模擬研究計画書作成**
- 17:15-18:10 **人を対象とする医学系研究に関する倫理指針を踏まえた研究計画**
有江文栄先生（文部科学省研究振興局）
- 20:10- **グループ演習：模擬研究計画書作成**

8月20日（第2日目）

- 08:45-10:00 **臨床研究と統計学：実例から学ぶ**
大橋靖雄先生（中央大学理工学部人間総合理工学科）
赤司賢一先生（東京慈恵会医科大学附属第三病院小児科）
- 10:00-11:30 **グループ演習：模擬研究計画書仕上げ作業**
- 11:30-14:00 **模擬研究計画発表会（昼食）**
- 14:00-14:30 **修了証授与 総括**

なお、第4回CReSSは2018年9月8-9日、セミナーハウス クロスウエーブ幕張（千葉市）にて開催します。こんどは「身近」で、たいせつな問題を「大型の研究費がなくとも」着実に解決する研究にフォーカスして、「臨床研究の進め方（介入研究含む）」「観察研究について」「研究初心者が知るべき倫理指針10のポイント」「文献検索のコツ」「超初心者のためのプチ統計講座」「臨床研究と統計学」などのテーマを予定しています。

第3回メディカルライティングセミナーは2018年2月10日（土曜）です

論文執筆の基本を学んでいただくメディカルライティングセミナーも引き続き開催します。1) 論文執筆の基本、2) 論文に必要な英語表現、3) 基本的な統計手法の使い方 について、毎年好評の講師陣からレクチャーをしていただきます。これらの基本を学ぶだけで、きっとグレードの高い論文が書けるようになりますので、奮ってご参加ください。

第3回は2018年2月10日 10:20～17:00 TKP品川カンファレンスセンターにて行います。11月下旬に受付開始しますので、学会ホームページよりお申し込みください（先着120名）。

（CReSS WG 委員長：勝沼俊雄先生）

「災害時のこどものアレルギー疾患対応パンフレット」改訂版

2011年の東日本大震災をきっかけに、本学会は「災害時のこどものアレルギー疾患対応パンフレット」を作成、これまで避難所（熊本大地震）や災害に備えた講習会などで利用いただけてきました。しかし、作成からすでに6年が経過し、アレルギー疾患を取り巻く環境も変化してきましたので、2017年11月に改訂版を発行しました。以前のものは、疾患ごとに保護者、周囲の方、行政の方向けに分かれていましたが、今回は疾患ごとに1枚にまとめ、行政担当者向けも1枚とし、より使いやすいようにしています。そして、新たに家庭での薬剤や食品などの備蓄について主治医と相談するために、「非常時に備えて」も用意しました。また、避難所などで掲示できる、わかりやすい啓発ポスターも同時に作成しましたので、ご利用ください。「災害派遣医療スタッフ向けのアレルギー児対応マニュアル」とともに学会ホームページよりダウンロードできます。

改訂版パンフレットについては、全国の自治体に送付予定です。

（災害対応委員会 委員長：足立雄一先生）

「鶏卵アレルギー発症予防に関する提言」の解説（小児科医、患者・一般の方向け）

乳児期早期のアトピー性皮膚炎は食物アレルギー発症の大きなリスクです。国立成育医療研究センターの研究グループは、皮膚炎をきちんとコントロールした上で、鶏卵を早期に微量から摂取することで鶏卵アレルギーが予防できるという画期的なエビデンス（Lancet 2017; 389: 276-286）がだされましたが、これにもとづき、食物アレルギー委員会は「鶏卵アレルギー発症予防に関する提言」を出版しました（日本小児アレルギー学会誌 2017; 31:i-x）。さらに、小児科医向けと患者・一般の方向けにわかりやすい解説も学会ホームページに掲載しましたので、ご覧ください。

（食物アレルギー委員会 委員長：海老澤元宏先生）

経口免疫療法に関する注意喚起

このたび国内施設において経口免疫療法に関わる重篤な有害事象が発生しましたことについて（<http://kcmc.kanagawa-pho.jp/patient/milk-allergy.html>）、患者様とご家族に心からお見舞いを申し上げます。これまで経口免疫療法中にアナフィラキシーを含む即時型症状の誘発がおこることは経験されていましたが、低酸素脳症のような重篤な有害事象の報告は今回が初めてです。本学会としましては、この情報を共有した上で、食物アレルギーの診療に関わる医療関係者の皆様に対して改めて経口免疫療法に関する注意喚起をいたします。学会ホームページよりダウンロードできますので、会員の皆様はぜひご一読いただき、安全の確保に一層のご留意をお願いします。

（<http://www.jspaci.jp/modules/membership/index.php?page=article&storyid=220>）

（食物アレルギー委員会 委員長：海老澤元宏先生）

会員の皆様のご要望、ご提案はいつでもお待ちしております。office@jspaci.jp までメールをお願いいたします。（日本小児アレルギー学会事務局）